



**JR東労組** (東日本旅客鉄道労働組合)  
 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1  
 東日本旅客鉄道株式会社 代々木総合事務所 5階  
 電話 03-5315-0941  
 発行人 佐藤英樹 編集人 湯ノ目亜矢子  
 毎月1回20日発行/一部20円  
 (組合員の購読料は、組合費に含む)

2022年6月28日  
第737号



JR東労組ホームページは  
 ←こちらからアクセス  
<http://www.jreu.or.jp/>



議事を進行した議長団

【写真左から】

畠山代議員(秋田地本)、矢口代議員(大宮地本)

# 第41回定期大会

6月21日 RaiBoC Hall (さいたま市民会館おおみや)



コロナ禍の制限が徐々に緩和される中、6月21日に「第41回定期大会」を開催しました。

JR東労組結成35年、「えん罪・JR浦和電車区事件」から20年の節目の大会を、12名の実践的な発言によって創り出し、スローガンをはじめとする運動方針などを満場一致で確認しました。また、特徴的には、今後、会社の組織再編などに踏まえ、JR東労組として柔軟な組織運営を行うために東北と首都圏に協議会を結成することを提起、職場討議を行い次期定期大会で決定することを確認しました。

大会終了後には、「結成35周年記念レセプション」を開催しました。国内外から多くのご祝辞をいただき、JR東労組はこれからも組合員、そして支援いただいている皆さんと共に「抵抗とヒューマンズ」の精神で連帯していくことを確認しました。

## スローガン

- JR東労組結成35年！「えん罪・JR浦和電車区事件」を美世志会と共にたたかい抜いた20年！「抵抗とヒューマンズ」の精神を基軸に、いかなるテロにも戦争にも反対し、憲法9条を守り戦争のない平和で安心して暮らせる社会の実現をめざそう！
- 「新たな施策に対する5本柱」を基に、今後もJR東日本の経営姿勢に立ち向かい、組合員と共に「新生JR東労組運動宣言」を実践し、組織強化・拡大！組織の未来を切り拓こう！



**JR東労組結成35周年！ えん罪・JR浦和電車区事件から20年！**  
**これからも「抵抗とヒューマンズ」を基軸に、堂々とたたかい抜こう！**

中央執行委員長あいさつ(要旨) **佐藤 英樹**

「血と汗と涙」で築き上げた国鉄改革を経て、JR東労組は35周年を迎えました。諸先輩の命が奪われたことや、大弾圧と組織破壊攻撃、18春闘における組合員の大量脱退、一言では語れない歴史の中でも、これまでたたかい抜ききりを迎えることができませんでした。昭和採用から平成採用へ受け継ぐ者として、これからも「抵抗とヒューマンズ」を基軸に組織の団結を強化し、様々な課題に立ち向かっていきます。

様々な運動課題を通じて労働者意識を高め、JR東労組の組織強化・拡大を実現しよう！

21春闘総括の過程で「定期昇給がカットされたことは単なる赤字が理由ではなく、社員の働き度や競争が増し、人事賃金制度変更を通じて定期昇給の昇給係数に差をつけるなどの狙いがあるのではないか」ということが見えてきました。22春闘における団体交渉で会社は、「賃金引き上げは、定期昇給やベースアップ、基準内賃金総体で考えている」と述べています。このことにより、組合員や社員がベアと定期昇給は全く関係なく、一括りに「もうえるならありがたい」となってしまうのは、春闘そのものが形骸化され、終焉してしまう可能性があります。経労委報告などにも現れているように、会社が雇用や賃金の在り方を大きく変化させようとする狙いを確定し、今後のたたかいに向けて議論を深めることが重要です。

不透明、業績が悪化したときは定元の動向を理由に賃金カット、業績が回復すれば好循環をつくり出すことにより還元できるなど、常に理由をつけて我慢を強いるのが会社です。夏季手当要求実現に向けたたたかいの過程で組合員から寄せられた声は労働実感や生活実感など7400件にのぼりました。JR東労組は、これからの堂々と要求を掲げ、バス関東本部・バス東北本部・ステーションサービス協議会の仲間と連携し、職場からのたたかいを通じて組織の団結を強化します。これからは組織一丸となって奮闘しようではありませんか。

「組織の再編」で職場がどのように変化していくのを見ていくと、統括センターや営業統括センターが廃止されるといふことだけではなく、12支社や様々な職場の実態に合わせて、職場にユニットやチーム、プロジェクトや委員会などのグループが発足され、職場の生産性をさらに向上させようとしています。私たちは、ユニット制などの現実をきちんと把握し、職場課題の解決を図ることが重要です。「組織の再編」で会社は「競争が発生する要素はない」と回答していますが、現場にユニット制を導入した他企業の動向を見ていくと、社員評価が身近におこなわれ、協調性や課題に前向きに解決できる人材が評価されるようになっています。

今後、企業に必要とされる社員はより明確になり、社員間の競争などによって最悪の場合、安全や命を脅かす事態も発生するかもしれません。安全を最大の価値基軸に施策に立ち向かっていきます。

JR東労組結成35周年、「えん罪・JR浦和電車区事件」から20年「抵抗とヒューマンズ」の精神を基軸にJR東労組はあらゆるテロにも戦争にも反対し、憲法9条を守り、平和で安心して暮らせる社会を実現しよう！

ロシア軍によるウクライナへの侵攻・侵略は、4カ月を迎えます。そのような中、メディア報道は一方的なものになっています。ロシア軍は、これまで軍事施設をはじめ、駅や学校、病院などの公共施設だけではなく、原発施設にも攻撃を加えています。武力行使して解決しようとするロシアの行動は、決して許されません。

アメリカ政府が軍事支援した総額は約5800億円にもおよび、欧州から提供された武器を含めるとウクライナの軍事力とロシアの戦力は比べものにはならないほどです。武器供与によって戦争は激化するだけではなく被害は拡大し、戦争長期化によって民間人が犠牲になる一方で、軍需関連株が高止まりを続け、軍産複合体などが莫大な富を得ています。

沖繩が本土復帰から50年を迎えた現在も、沖繩に米軍専用施設の70%が集中する現実、沖繩に集中する米軍の軍事優先の運用が住民生活を脅かす状況など、「国防」の名の下に犠牲を強いられかねない状況が現在も続いています。

「正しい戦争」などありません。戦争によって誰が得をして、誰が犠牲になるのか、「ウクライナ避難民支援カンパ」をはじめ、沖繩研修や様々な平和研修を通じて、戦争の本質を学ぶことが重要です。

JR東労組はあらゆるテロにも戦争にも反対です。一刻も早く戦争を終結させるための外交努力を訴えることはもちろんのこと、避難を余儀なくされた方々の日常を取り戻すために可能な支援を進めると同時に、これまで連帯してきた仲間、皆さんをはじめ、9条連や連合、地域の皆さんとの連携を強化し、平和で安心して暮らせる社会の実現に向けて奮闘する決意です。

私たちは、ウクライナ侵攻・侵略を利用して日本政府が中国包囲網をアメリカと形成していく動きを見逃してはなりません。政府・自民党が中心になってつくり出す軍事力の強化で、私たちにも戦争の危機、命の危機、生活の危機が訪れようとしている今こそ、6月22日に公示される参議院議員選挙や来春に予定されている統一地方選挙にはしっかり関心をもち臨まなければなりません。

6月16日、民進党から比例で当選した議員が辞職したため、比例名簿に基づいて田城郁さんが繰り上げ当選候補になりました。心の準備もままならない中、任期が1ヶ月でも組合員の負託に応えるために、全力を尽くす決意をしました。田城さんを支えて共にたたかう決意です。

私たちに問われていることは、労働組合として「組合員の雇用と利益を守る」ために「抵抗とヒューマンズ」を基軸に、会社経営姿勢だけではなく様々な課題に立ち向かっていくことです。そのためには、自分自身の労働者意識を高めなければなりません。

あらゆる運動を通じて「職場のみんなと一緒にたたかおう」「俺は最後までJR東労組で頑張る」という仲間をいかにつくれるのか、組合員一人ひとりが考えて実践し、未来を切り拓こうではありませんか。